

住まい

県内

四日市市	17	いなべ市	3
鈴鹿市	17	大台町	1
津市	92	多気町	1
松阪市	6	紀北町	1
伊勢市	15	明和町	3
亀山市	3	菰野町	1

県外

名古屋市	1
知立市	1
豊田市	1
豊明市	1
弥富市	1
千葉市	1

講演会アンケートの集計総数一六六枚



講師 氏 史 崇 戸 船
ふな 船 戸 崇 史 氏

テーマ

映画「つ・む・ぐ」

在宅医が看取りの中で考える

日時 平成二八年七月二四日(日)

一三時半～一六時

会場 アストホール(アスト津4階)

参加者 二二〇名

発足一八周年記念講演会

「みえ生と死を考える市民の会」会報



第19号

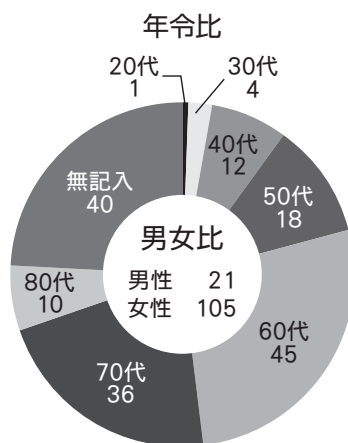
発行 平成28年12月15日

発行責任者 大西和子

連絡先 伊勢市御園町高向927



2013年98分 吉岡敏朗 監督
映画紹介サイト www.tsumugu-movie.com/



映画「つ・む・ぐ」九八分を交えながら、その中に登場される在宅医の船戸崇史医師を講師にお願いし、最期まで生活の場で人が生きる姿を語っていただきました。副題は「在宅医が看取りの中で考える」。

今回、在宅医療助成 勇美記念財団の助成にも応募し、採用され助成金を得ました。そのメインテーマは『在宅医療』知っていますか？家で最期まで療養したい人に」です。私達は亡くなる時間枠(いわゆる終末期という考え方)や、医療や介護という支援者の枠に沿って考えるよりも、市民の目線で人の人生がどのようにつながってゆかかを考えたいと思っています。大切なのは一回性の「命」だけではなく、伝え伝わる「いのち」の連続を、視野に入れたものだと考えます。

私達の今回の企画は、この映画のテーマの占める割合も大きいと考えます。映画は、船戸医師を含め三人の生き方を織り成すように構成されています。服飾デザイナーの「さとうさぶろう」さんがタイに移り住み、農村で素朴な織物を作り始める。その服の着心地がつなぐように、在宅医の船戸医師の日常と、

がん患者さんたちとの旅行の体験が語られる。また、農業に回帰しながら歌を手離さない Y

aeさん（加藤登紀子さんの娘さん）の日常。

この方々をつなぐことになるのが、船戸医師の患者さんということが、横糸のようにやがて見えてきます。老若男女のがん患者さんたちは闘病だけではない生活の勢いを、映画の中でしっかり主張されます。そういう場面を、まず見ていただこうと思っております。

日本のがん治療は、ある意味、単焦点からの強い光に照らされて、影の部分も深いという苦悩を背負わされているような気がします。最善を求めているがん治療、在宅ケア、緩和ケア、喪失感の中での再生、グリーフケアなど、たしかに多くの課題もあるでしょうが、それだけではないようにも思えます。

船戸先生には、期待を持って多焦点のお話をお願いしました。患者さんとの交流の中に、氣功を使いつつ、コミュニケーションをしておられ、笑いも絶えないご講演も印象的でした。多くの人は迷いの中では物事の単純化を求めるものですが、船戸先生は複雑なものを抱えつつも俯瞰した目で、毎日を生きることを提示されたのではないかと考えます。（文責E）

参加者感想文（抜粋）

1 おもしろかった

2 すばらしい映画を見せて頂きました。楽しかった。

3 自分は親を選んで生まれてきた。

4 船戸先生のような人が増えるといいなと医療が変わっていくといいなと、私自身、本当にやりたいことを見つけて生きたい、もう生きたいと強く思いました。

5 氣持が楽しく（うれしく）なりました。ありがとうございました。

6 今は遣りたいひとは自由に生きられる。遣り残していると言えるのは、別居中の妻に五つのことを言うことだと思う。

7 自分の出来ること、やれることを中心に生きたいと。

8 後でFacebookを書きたいと思っていました。私も先生のクリニックで最後の時をすごしたいです。

9 先生の話わかりやすく良かった。

10 命をつむぐ内容で死はどう生きるかとの命題を分り易く説明され、参考になりました。



11 今、いかされていることに「ありがとう」と言えるか、死は不可解なものとしてとらえるかが永久の課題だ。若い、病いの向き合い方次第なのだということは自明だ。映画に記録された病気との出会いと処し方に学びたい。要点を抑え「死に様は生き様」のメッセージはよくわかる。ユーモア交じりもいい、在宅医療の現場影響は感動的だ。

12 大切なことを学びました。ありがとうございます



ございました。

13 とても良かったです。自分のやりたいことを本当にしているのかどうか、この年（67才）になっても分りません。もう一度、良く自分に聞いてみます。

14 予想外の内容と素晴らしさ、ありがとうございます。ございました。

15 生きることの意味を再考しました。有意義な時間でした。もう一度、みんなで映画を鑑賞したいです。

16 非常に感銘を受け、死について考える必要性を感じました。感謝です。

17 いのちのことを集中して考えることができた。講師さんには、気付かせていただきました。ありがとうございました。

18 これからの時代、介護施設があるか、そして介護してくれる人がいるか不安。

19 映画はとても感動的でした。自然な感じがよかったです。船戸先生の気負いのない語り言葉が健康の基本だと同感です。不安が除かれたら、人は死を恐れなくなると思っています。

20 ガン予防方法も教えてもらったのでよかったです。最後をどうむかえるのか、残された家族はどうなるのか？も考える事が出来てよかった。

21 死を考えることの大切さについてあらためて考える良い機会となりました。

22 学校の必須授業にしてほしいお話でした。私もガンを経験させて頂きましたが、天地より頂戴しているこの器は本当にすごい生命力をもっています。皆、死亡率一〇〇%今の生き様が、死に様になる、笑顔でいける、見送ってもらえる、笑顔をつないでい

ける、そんな生き方を出あわせて頂くおひとりおひとりと共有していけたらと思います。本当にありがとうございます

23 私は元気ですが、先のことを考えておく必要があると思われました。家族を家で看取るために今から考えたい。ありがとうございます。言いながら死ぬる日々をすごしたい。

24 日本において、在宅医療を迎えられる人は大変少なく、都道府県によって差があると新聞記事で知りました。より多くの方がほぼ平等に在宅医療や看取りを迎えられると良いなと思いました。

25 毎回船戸先生のお話は心に沁みます。

26 「つ・む・ぐ」という映画は自分が想像していたものと全くちがうものでした。死ぬというよりも自分の人生を生きぬく医療はその中のほんの一部でしかないと感じました。人生すべて自分の思い通りにいっているわけではないけどこうしてまた素敵な出会いがあったことに感謝します。

27 映画もとても良かったです。船戸先生のお話、話術が素晴しかったです。内容も楽しかったです。

28 自分らしく生きる意味を考えてみます。

29 船戸先生のお考えや、お仕事に感銘をうけました。

30 映画も講演もあったかでした。来てよかったです。

31 聴くことができて良かったです。たのしかったです。沢山笑いました。すべてうまくいっているが気に入りました。

32 津市にてがん患者会「RubanRose三重」を主催しております安田と申します。アロマセラピストとして、がん患者さんへのタッチケアを中心に終末期医療も含め活動しています。映画も船戸先生のお話も良かったです。今後ともよろしく願います。

33 「つ・む・ぐ」は感動的でした。船戸先生の講演はすばらしかったです。日常の忙しさにかまけて見ないようにしてきた心の深い深い所を見ることを思い出させてくれました。私も自分の番がくるまで医療関係者として少しでも安らかに亡くなっていく人のお役に立てればと思っています。ありがとうございました。

34 とても心が動きました。

35 私自身、日々、独りでこれから先のこと

を考え不安でしかたないときがあるのですが、今回の講演に参加して、少し心がほっとしました。「すべてこれで良いんだ」これから私もこの言葉を言って生きていこうと思います。大丈夫！

36 すばらしく魅力のある先生でした。ありがとうございました！

37 感動しました。骨肉腫で亡くなった母も生き様死に様を私に示してくれました。

38 自分の生に大切に向かい合うことは死にもの大切に向かい合うこと！と感じました。医療の中にもっと当たり前に死をサポートできる「力」があったらいいと思います。

「つ・む・ぐ」の中で、船戸先生に出会えた方はしあわせと感じます。もっと日本中の誰もが支えあういやしの医療を受けられる環境になることを望みます。

39 船戸先生のがんを治すにはガンになった原因を取り除かなければならないという言葉が印象的でした。すべてを受け入れるために今を生きる↓これを医療にとり入れる「生きる」と「生かされている意味」を強く再認識させて頂きました。

40 気持が軽くなりました。おもしろかった

ですヨ。今度ガンサロンで「全ては上手く」やりまーす^(^^)ベテラン患者

41 映画を見て世界中の皆がどこかでつながって生きているんだなあーと思いました。今の私がこうして生きていることが多くの人たちのお陰と改めて感謝しました。先生のお話も良く理解出来ました。ありがとうございます。

42 生きる、死ぬという事について改めて考える機会になりました。船戸先生ありがとうございます。

43 すごく良かったです。ゆっくり豊に心からありがとう。

44 船戸先生のお話をもう少しお聞きしたかった。良い機会を与えて下さり感謝します。

45 「皆本当のいのちをつむぐ、そこから本当の未来が生まれる」・・・目先のことにのみ惑わされてきた気がします。忘れかけていたものに気づいた気がします。

46 すばらしい講演でした。良い勉強ができました。いっぱい笑顔の生活を送ります。

47 (映画を観て) 今まで自分なりに精一杯生きてきたつもりでしたが、まだまだ中途

半端であったと感じました。自分が病氣になった時、あのように笑って過せるのだろうか、と、自分を見直すきっかけになりました。とても良かったです。先生のお話も分りやすく良かったです。参加できて良かったです。

48 知人がスキルス胃ガンステージ4になったと、この講演に行くと決まった後に聞きました。

49 映画、とても良かったです。

50 とても良かったです。義母にも来てもらいたかった。

51 とても良かったです。何か不思議な感覚を覚えました。でも一人の出演者の中で一つでもまあ良かった、楽しかったという自覚ができることを言ってみえたのが印象的でした。又、ボランティアに参加して自分も介護者の人や病院との力を頂きたいと思っています。

52 映画がとても良かったです。命をつむぐ看とり、みんな仲間の助けが必要だと感じた。ぜひ尊厳死を望みたいと思う。

53 船戸先生のファンになりました。又、お会いしたいです。

54 すばらしい映画と講演をありがとうございました。昨年末、寝たきりの母を自宅介護の後で見送りました。訪問医師、看護師、理学療法士の皆さんと月二回、二泊三日のショートステイを受け入れていただいた特別養護老人ホームの皆さんのおかげです。改めて感謝の気持ちを新たにしました。こうしたサービスが普通になるといいのですが。

55 とても良かったです。「生きる」について改めて考えさせられました。

56 今を懸命に生きているのかと改めて反問する機会をもらいました。有難うございました。

57 とても良い映画で心に残りました。おはなしもとてもとても勉強になりました。すべてうまくいきそ～

58 映画を観ながら感動で涙が浮かびました。すてきな活動をしておられる方がたくさんいらっしゃることにまた感動です。船戸先生のなめらかな軽みようなお話の中の深さが心に浸みました。

59 とても感動的でした。よい機会を得られました。泣いてしまいました。

60 映画、とてもすばらしかった。何度も涙

が出てきた。出演された人の中で亡くなられた方が何人もいらっしゃるが、笑顔で楽しそうに精一杯生きられて良かった。先生、サポーターの人達がすばらしい。

61 映画から生きようとする力をいただきました。完治しないガンで五年生存率38%と



言われやけになっていました。治療を止めてこのままで何年生きられるか？それまで明るく楽しく生きてみたいと思いました。

62 自分、家族の死を考えるきっかけになった。

63 今をいかに生きるか、考えたいと思いました。又、家族と話し合いたい。

64 「つ・む・ぐ」の映画に感動しました。生きる力をもらいました。

65 自分が心から思うこと、素直になって行動していきたい。

66 講演と映画、凄く感動してます。不平不満なんて言っていられないと思いました。少しだけ優しくなれそうです。

67 たいへん良かった。事例が多くてわかりやすかった。

68 色々なことが理解出来て良かった。

69 今後のことを考える機会になりました。大変良かったです。

70 病気になった時、死を間近に感じたとき、「かくご」が大切という船戸先生のお話に心を動かされました。

71 大切なことなのに、知らず知らず先のばししているテーマです。深い感銘を受けて

います。ありがとうございました。

72 映画と講演と合っていてすばらしい内容でした。

73 心が洗われ心がいやされ心がふるえました。

74 とても心が豊かになる映画でした。講演もわかりやすく、良かったです。

75 全てを受け入れて、楽しく生きることのすばらしさ、とても良かったです。自分らしく生きて、自分らしく終れたらと思う、こんな在宅医療がもっと出来ると良いと思います。

76 「本当にやりたいことをやるために生きる」感動しました

77 映画も船戸先生の講演もとても良かったです。Yaeさんの歌が素晴らしくとても心に届きました。

78 非常に為になる良いお話で自分の将来を良く考えてみたいし、命について考えていきたい。

79 楽しくて、もう一度船戸先生にお逢いたい！

80 実のあるお話でありがとうございました。



81 もう少し今をたいせつに生きて行こうと思います。

82 ユーモアたっぷりで、全部納得できる講演であった。とても良かったです。

83 本当に心にしみた良いお話でした。映画も講演会もただ感謝しかありません。

84 映画とても感動しました。自分らしい最後を迎えることができるいろいろな考えたいと思います。先生のお話具体的でよくわかり楽しく学ぶことができました。

85 とても感動しました。今日今から先生の

おことばを大切にあとの人生を歩んでゆきたいと思います。主人（53才で）、両親、

主人の両親が天国に召され、今は独り暮らし三〇年です。母の介護は大変でしたが若

かったので精いっぱいできました。父は亡くなる日まで元気で旅立ちました。そして

自分が子供達に「リビングウイル」のことは話していますが、やはり自宅で旅立ちたく今日はそのことを少しでも学びたいと参加させていただきました。

86 ユーモアのある話の中で、命についての深いお話を聞かせて頂き、あり難うございました。養老町は遠いので、本当に残念です。又、先生のお話を聞きたいです。

87 参加させていただき、良かった。今、私は元気でいられるが、先はどう変化するか？考えたくないです。映画に感動いたしました、若い人達一生けんめい生きること。

88 大変良かった。先生が若くお元気なせいか死に対し前向きなのでお話が明るく感じられた。

89 こういったお話始めてです。感動しました。

90 人間本来のいき方があふれた映画に今の

世の中の弱さ・人間性の劣化の原因を思い知ったように思います。在宅医療の充実は望まれる事ですが、近隣に見かけないので残念至極。

91 ありがとうございます。先生の信者になりました。

92 「自然治癒力」↓人は治るようになっていく。治らなくてもいい！私は治らなくても精一ぱい生きられればそれでいい！これが私の生き方です。精いっぱい生きることを楽しんでいます。

93 伊勢市から思い切って来て良かったと思いました。理想の船戸クリニックです。

94 人生の為になることばかり。

95 一番気になる、むつかしい話を理解しやすいように話して下さい。ありがとうございます。

96 すべて参考になりました。主人（83才肺癌）と共に生活していますので、主人に対する気持が更に深く愛を持って支える事が出来ます。最後に先生のクリニックを頼ってもいいですか？ホスピス（入院施設）はありますか？

97 生きることに関心がありますが、楽しく生きる笑顔は忘れがたい。映像は美しくもありました。

98 色々と私なりに考えさせられました。とても有り難い映像を見せて頂きました。今後の自分にとっても励みになりました。頑張ろうと思います。現在83才です、元気です。

99 大変感激しました。身近な事ですので非常に為になりました。

100 ユーモアに満ちた判りやすいお話でよかった。その中に重要な主題があり、心に染み入りました。

101 すばらしいお話、映画でした。どの言葉も心にひびいた。

102 とても良かった。面白いが意義がたくさんあったと思う。自分の年齢では、いつ死んでも良くなったがここまで生きたからこう考えられる、死が迎えられるまで、死を受けいられるまでは生きていられたことは幸せであると思う。

103 本当に良かったと思いました。先生様の在宅医の方が市内に見えたら終末は自宅で終りたいものと思いました。

施設見学会

日時 平成二八年二月四日(土)

一一時～

施設 名古屋南生協病院

緩和ケア病棟&よって横丁

参加者 五名

感想文

① 南大高駅前に建つ南生協病院の建物群、非常に寒い日だったが、そこは明るく暖かい感じの建物だった。

中に入り強く感じたことは、ホールや連絡スペースの天井が高く開放的に作られて



中庭にて

いたことだ。「建築賞」受賞に納得。

明るく病院のイメージを払拭。また新病院と様々な施設の建設に大変多くの住民の参加を得られたとのこと。活動の理念は多くの人々の賛同を得られても実働のすそ野を広げることは難しい。体験を学びたいと思った。

② ここは、「住む人にとって思いの詰まった理想の住み家」と言いたい。

南医療生活共同組合は、市民の協同にこだわった「くらしの協同組織」でありその基本理念は「みんなちがって みんないいひとりひとりの いのちの輝く まちづくり」である。

どんなことでも、この理念に照らし合わせられる市民の力にまず感嘆しました。一夜にして築かれたものではないことをつくづく感じました。院長の講義に質問してみると生協活動そのものが「趣味」ですと回答されました。納得しました。

③ 一人暮らしでも安心して生活できる居場所もあることが確認でき嬉しく思います。

④ 自分の住む町にこんなにいい病院や施設があるといいなと思います。市民や

会員の思いで出来上がった病院、希望がかなえられた施設は素晴らしい住環境。入居できるかは私にとって夢かな？

⑤ 昭和三四年の伊勢湾台風の後、壊滅的であった地域に医療生協会員と住民の協力出資によって最初の診療所が立ち上がった。時代の趨勢と民意によってハード面・ソフト面が充実した総合病院ができるに至るまで、少しずつ拡大されていった歴史があることを知った。二〇一五年には病院を核として地元の新しい街づくりと、多世代で支える超高齢社会に対応できる「地域包括ケアシステム」の運用がはじめられた。今までの病院や施設の既成概念が吹っ飛んでしまふような様々な構想が盛り込まれている。街の様相が濃く、飲食街、フィットネス、幼稚園、若者が集える無料空間提供など。一部であるが「よって横丁」には「よって在宅診療」・「訪問看護ステーションよって」や、「サービス付き高齢者向け住宅おたがいさまの家」「住宅型有料老人ホームおたがいさまの家」などの命名も言葉通り親しみやすく温かみを感じるものばかり。おりしも二階ホールでは認知症の

皆さんが社交ダンスを間違いないながらもこやかに朗らかに楽しんでおられる場面に出会うことが出来た。ああっとため息が出る羨ましい環境。会員ボランティアさんの活躍も素晴らしい。ご案内ご説明ありがとうございました。

平成三十七年度 第三回「三」講演会 & 第二回語り合いの会

日時 平成二八年二月二日(日) 一三時半
場所 三重県総合文化センター 大研修室
参加者 三六名

演題 「生きること、伝えること」
AYA世代(思春期・若年成人)のがん
& 語り合いの会



講師
廣田 圭 氏

20才の時にがん告知を受けた青年、廣田圭氏の体験談を聞いた。治療に伴う肉体的、精神的な問題だけではない。若い世代だからこそ直面する恋愛や結婚、仕事など、人生を左右しかねない深刻な問題もある。しかし、自分の境遇を嘆き悲しむだけではなく、同じような体験をした仲間や支援者とともに闘病中の若者を支える活動を始めた。年配のがん患者にはない力強さ、行動力を感じ頼もしく思えた。一人よりも大勢でパワーを増大し、マインスをプラスに転じて希望のある明日に変えていこうとする活動は素晴らしい。体験したからこそわかるがん治療のありかたも、少しずつ改善されていくことを願いたい。

講演後、廣田氏を交えて五つのグループに分かれて語り合いの会をもった。話しやすい雰囲気の中で進行し、非会員の方々にとっても有意義な時間であったのではないかと思う。同世代の若者たちにもぜひ聞いてもらいたい内容の会であった。

(N)

感想・アンケート(抜粋)

1 今日はとても良いお話を聞かせていただき

きありがとうございました。広田さんと同じようにがんを患った娘を持つ家族としてとても勇気を頂きました。

2 廣田さんのお話を聞かせていただき有難うございました。大学二年生でがん診断されたこと、淡々と話される中にはいろいろな思いがあると思います。息子が…と重ね合わせたとき、家族として何ができるのだろうか、考えさせられました。「キャンサーギフト」と言う言葉があり、そう受け止められる方ばかりではないと思いますが、素晴らしいと感じました。今後

語り合いの会



3 20才代で精巣腫瘍を発症され、抗がん剤の成功例は、廣田氏そのものの幸せと思います。今後もお身体を大切に家族の成長を祈っております。

4 廣田さま、今日は良いお話し聞かせていただき有難うございました。子供さんのためにも元気でいてください。

5 廣田さんのお話大変良かったですし、後で患者さんや患者さんのご家族のお話が聞けて良かったです。

6 廣田さんのお話、体験に基づいたもので大変わかりやすく心に染みました。がんを負けず末長く元気に過ごされますようにと願っています。後半のお話し合いも有意義でした。

7 がん患者さんに対する心のケアがまだまだ不十分だと、話を聞きながら感じた。若い方、看護大学の学生さんに聞いてもらいたかった。

8 今日はとてもいいお話を聞かせて頂き、元気をもらえました。明日からまた頑張ろうという気持ちになりました。ありがとうございます。

9 今日は、がん告知を受けてから治療の

様子、心情などお話しいただき、自分の時を思い出しながら聞かせていただきました。もっと若い方にもたくさん聞いていただきたかったです。

10 サポーターをこれから始めます。廣田さんの告知時のこと、心の動き、友人家族、就職について感じたこと、この十年間のことをきいて「苦しみを一人でも知ってくれたらこんなにお気持ちが楽になるんだな」と言うところが印象に残りました。患者さんの心に寄り添い、想像力を働かせて気づいていきたいと思いました。

11 自分の経験も踏まえて、がん告知はすべての出発点。告知と言うより「宣告」しているに過ぎないと思った。医療の根底にまだ「病氣」だけを見て「病氣を持った人」としての扱いをしていないために、告知から治療まで廣田さんのような思いをする患者さんが沢山いるのではと感じます。医療に関係する方々は、がん患者さんのこうした思いを聞いて現状を改善して欲しいと思う。若い人のがんは仕事や生活（収入）に影響するのでさらに別の問題もある。

12 がんになり感じ、得たことがリアルに伝

わってきました。病氣になったことで時間の大切さがわかった。今の自分に言い聞かせたいと思います。

13 自分のありのままの姿を周りの人々に伝えるのはなかなか勇気のいることです。偏見や差別にさらされるのではないかと心配からです。しかし、そこを突き破って回りに本当のことを伝えるのが大切であること。伝えていけば理解してもらえ、力を得られること。廣田さんが体験から学ばれたお話、私も同じ経験がありますので深く共感できました。

15 病の中で揺れ動く気持ちを語って下さり心に響きました。自分ががんになった時、家族や身近な方々ががんになった時、廣田さんの今日の講演を支えに生きていきたいと思えます。

16 看護師です。患者さんの立場から見たケアへのコメント、貴重な機会でした。白衣とパジャマ、それぞれの立場を取り去って、同じ位置で話す場って大切ですね。次の機会があればぜひ参加したいです。

17 緩和ケア病棟で勤務しています。私の息子も精巣腫瘍で、今、京都府立病院で治療

中です。昨年七月に診断され半年を経過しました。非セミノーマで五年生存率70%とIC（インフォームド・コンセント）を受けました。化学療法はハクールで終了しました。今月、初めに右肺の腫瘍摘出術を受け、来月左肺の手術予定です。それから開腹してリンパ節郭清術です。幸い治療は順調です。いつか廣田さんにお会いすることがありましたら、「息子は元気で社会復帰できました。今も生きています。」とご報告できればと思っております。

18 廣田さんのお話、内容も理解しやすくポイント的に納得いくものでした。今後、自分自身がんと付き合う時の参考にさせていただきます。ありがとうございました。

19 今日は、いろいろな実体験をお聞かせいただき、今後の参考にさせていただきます。ありがとうございます。

20 廣田さんの貴重な体験を聴かせていただいて「やまない雨はない」「明けない夜はない」と実感しました。苦勞された分、これから長い人生を送っていただきたいと思います。

21 廣田さんががんを体験され、そこから

「伝えなければならぬ」と思われたこと、お話の中に沢山のメッセージがあったと思います。患者の心を聴くことの大切さ、AYA世代が心を開ける人・場所について、社会に出るためのサポートなど、「伝えること」で周りの理解が少しずつ進んでいくと思います。これからも、お体を大切に活躍ください。

みえ生と死を考える市民の会

第十九回 総会

日時 平成二八年四月一七日（日）

会場 三重県総合文化センター

生涯学習センター二階視聴覚室

参加者 二〇名、委任状 四八名、会員数

一三二名で成立

議事

1 会長挨拶（大西）

2 総会議長選出（遠藤）

3 平成二七年度 活動報告

（事務局代理）

4 平成二七年度 決算報告（会計）

5 会計監査報告（樋口）

6 平成二八年度 活動計画案

（事務局代理）

7 平成二八年度 予算案（会計）

8 その他

① 年間計画の一部名称変更について

年二回開催する勉強会の名称を「ミニ講演会」と名称を変更します。

② アンケートで時々質問をうけます。

その内容について回答

「運営委員は、手弁当ですか？」などがあります。「ハイ」手弁当のボランティアで携わっております。

皆様の会費を大切に運用させていただきます。ただいております。

今年度の総会は、規約並びに役員についての変更等トピックスは無く、順調に出席の会員皆様のご承認を頂きました。

今年度も会長を中心に運営委員一同、会員の皆様と共にこの会の活動を行ってゆきたいと思ひます。

（事務局）

平成二八年度 第二回「三」講演会

日時 平成二八年四月一七日(日)

一四時半～

会場 三重県総合文化センター

生涯学習センター二階視聴覚室

参加者 二九名

演題

「若年性認知症を生き切った
夫と歩んだ日々…」
大切なのは笑顔と会話」



講師
多賀 洋子 氏

感想・アンケート (抜粋)

1 ご本を読ませていただくより、じかにお話を聞かせていただくことでより認知症を身近に感じ、今後の指針とさせていただけます。

二〇年程前に発症し、一〇年前に亡くなった夫の母に、今お話を伺ってからであ

ればもっと愛情いっぱいに接することができたであろうと残念です。ありがとうございました。

2 日常の中での、初期の様子が聞けたことが、特によくわかって、心に響きました。社会で重圧をになって働いてきた主人と、むつまじく老後を暮らしたいと願っていても、現実はいくらとも、老いていきま

す。時には、怒りでふるえる程感情が煮つまってきます。こうして学習しながら、笑顔と会話の大切さを思い出していきます。

3 人格の「カク」となる部分は最後まで残っている、ということは心にひびきました。ありがとうございました。

4 発病から逝去されるまでのプロセスを詳しく話していただき、認知症という病気の概要が理解できました。個人的体験を広く人々のために知らせ大切なご活躍を続けておられるお姿に敬服します。

5 認知症介護に直面した時、それまでの関係性が出てくるものだと思います。互いに思いやる日々の生活を大切にしたいです。多賀先生のやさしさ、人に対する愛に心揺さぶられました。

6 母は97才で亡くなりましたが、その三年くらい前より少し認知障害が出て来たように思っています。先生の気持がとても心に響きました。ありがとうございました。

7 よいお話をありがとうございました。私も90才代の両親と同居なので、近い将来同じような立場になった時、参考にしたいと思いました。

8 メモをして聞く話ではないと思いました。悲しい厳しい御体験かと思うのですが、流れるようなトーク(と言ってしまおうと軽いですが)を心地良く聞かせていただきました。しかし「私自身の四年後『定年』の時に、自分はもうなっていないだろうかという不安もよぎります。

9 お話、ありがとうございました。おだやかなお話でしたがそのうしろには大変なときが流れているのを感じました。これからの自分の生き方にもとても参考になりました。

10 ご夫婦の温もりのある情景が、浮かぶような語りとても感銘しました。脳出血により認知症になり亡くなった父と過した時を思い起こし、もう一度その時に戻り今日のお話を参考に接することができればと思

いました。

11 安心いたしました。優しい心になれたら幸せですね。今のところ私の周りには認知症の人はおりませんが、これからは心にとめて接したいと思います。

12 本日は有難うございました。がん体験者で死のことを考えた者です。「生と死を考える会」の継続は大変だと思いますが、存続することに意味があると思います。看護師であり、患者さんの死、家族の死、友達の死等死は幾度ともなく経験をしています。しかし、現在の子どもたちは全くゲーム感覚（ゲーム、オーバー）でしか理解できない子もいると思います。家族の中、学校の中、社会の中でいかに身近に死を感じる事が出来るか、自然体で触れていきたいと思っています。小学校での読み聞かせボランティアではそんな話も取り入れています。

13 人間としてどうあるべきか、が重要ではないかと思えます。一日一日を大切に生きること病気になるうが健康であつても同様ではないかと思つた。

14 多賀先生に終末に至る病氣等死をどう受けとめたかお聞きしたかったです。「認知

症」の場合は老衰を受けとめる様に死を待つしかないのか。

平成二八年度 第二回ミニ講演会 & 語り合いの会

日時 平成二八年一〇月二三日（日）

一〇時～一二時

会場 アスト津四階 第四会議室

参加者 一六人

演題

「聞き書き」って何？
誰でもできる入門案内



講師
三重大学大学院医学系研究科
看護学専攻 准教授
坂口 美和 氏

ミニ講演会ご案内チラシの解説より

「聞き書き」とは、話を聞かせていただいて、それをその方の話し言葉で書き、世界で一冊の本にすることを「聞き書き」と言います。

語り手の言葉に耳を傾け、話し言葉をそのまま文章にする。そこには、ただの会話から

は得ることのできない、相手への想いと共感が生まれます。看護、介護、教育、ボランティアなど、様々な場所で使える「聞き書き」は、実践的なコミュニケーションツールです。

感想・アンケート（抜粋）

1 「聞き書き」って、やさしい言葉であるがその目的って何だろうと少々疑問に思つた。目的がはっきりしないと長時間の聞き取りがその人の大切な時間を無駄にしないかと。「聞き書き」とは語り手の話を聞き、それをその人の「話し言葉」で書いて、活



字にして後世にのこすこと。(「聞き書きをはじめよう」小田豊二。木星舎、二〇一二)

とある。だから、世界で一つしかない本が出来上がるのであり、その人の貴重な生きた証を聞き取るのであるから、聞く人の資質が問われることを学びました。また、いきなり「聞き手」になるのではなく研修会等が必要ではないかとも思いました。

2 「聞き書き」と言うものを今回知りました。ただ傾聴するだけではなく、文章におこしのこしておける。何が出てくるのかわからないワクワク感があり、その人の人生を聞きとるためには自分自身の感性を磨くことも必要と感じた。またこのような機会があれば話を聞きたい。

3 私の来し方をはじめて話が出来ました。場を与えていただき有難うございました。これからどう逝くか、いのちの正念場と思っています。

4 心理療法にも通じる話で興味深かった。今は小説や映画で感性を磨く勉強をしています。

5 昨年広島で戦争体験者の語りの伝承者から話を聞く機会があった。聞き書きが「何

か」が講義を聞いて違いが分かった。伝承者が話していたことは、間違って伝えることはできないため、養成研修はかなり長期にわたると聞いた。聞き書きはその時の本人の気持ちを会話の中から引き出すことと感じた。訪問看護の支援の中で本人の本音を聞きだしてほしいと思った。

6 楽しい聞き書き興味を持ちました。また講演会開いてください。

7 病気になったけれど病人にはなるまい!! 闘病生活中も登山を続けていたという田部井淳子さんの言葉です。昨日お亡くなりになりました。とてもショックです。聞き書き頑張ってみます。

8 グループに分かれての話し合いで、85才の方が戦後の混乱時代に保健師としてどのように働かれたかを話してもらえて勉強になりました。

9 将来退職後、在宅鍼灸師として活動したいと思っています。その時医療面接に加え「聞き書き」をやってみたいです。

今日のお話を聞いて、自分の両親からもう話を聞けない状況にあることをさんねんに思いました。今日は意義深かったです。

ありがとうございました。

10 今日もいい機会を頂き、ありがとうございました。遠藤先生の院内報で見た「聞き書き」が少し分かるようになりました。また坂口美和先生もこのテーマを追求していることを知り興味深く感じました。

坂口先生は、会議や検討会での質問が美しい方です。なぜ他者を傷つけないように上手く質問できるのだろうか?他の先生はストレートに(つまり訊かれたものが辛い思いをするような)質問をするのだろうか?と感じることが多々あります。「聞き書き」をするにしても聞き手の人格によつてずいぶん内容が変わってくるように思います。当然ですね。引き続き興味深いテーマでのご活動を期待しています。

11 とても興味深くお聴きしました。父母から聞いてみたかったですが、亡くなっておりました。今のお話をお聞きしたことで、「聞くこと」が楽しくなりそうです。

12 以前「交わりは教育」と言われた羽仁もと子「友の会」に15年間連なっていて、今日の坂口先生のお話を聞かせていただき通じるところがあり嬉しくなりました。そし

今後の予定

て自分は自分以外の人に興味がわき、その人の人生を知ることの喜びを感じてとても自分の人生に対する勉強になります。嬉しい時をありがとうございます。

13 「聞き書き」について一端を理解でき、

意義深い学びとなりました。すでに両親は亡くなっており、もっと聞いておくべきだったと残念な思いです。私の子供たちが自分たちの父親について理解を深められるよう、私の夫からその人生の来し方を「聞き書き」して残せるといいのではと思いつきました。コミュニケーションの機会が少なかったのです。本人の意向次第ですが。今日の学びを生かせるようにと考えております。次の段階の継続講義をお聞きたいと思います。

14 「聞き書き」の基本が分かったので、次に実践に移るための講習会があることを望みます。



当会発足一九周年記念講演会

日時 平成二九年六月二五日（日）

一四時～

会場 三重県総合文化センター

多目的ホール

●講師 秋山正子（あきやま まさこ）氏

秋田県生まれ 一九七三年聖路加看護大学

卒業 関西にて臨床

及び看護教育に従事。

実姉の末期がんの看

取りを経験時に、在

宅ホスピスケアに出

会い一九九二年から東京都新宿区にて訪問看

護を開始。二〇〇一年母体法人の解散に伴い

会社設立。現在、㈱ケアーズ代表取締役、白

十字訪問看護ステーション統括所長として、

新宿区及び東久留米市にて訪問看護・居宅介

護支援・訪問介護の三事業を展開。二〇一

一年高齢化の進む巨大団地に「暮らしの保健

室」開設。



秋山正子さんの転回点になった、お姉さんの自宅でのホスピスケアは、柳田邦男さんの著作に書かれています。「死の医学」への日記、一九九六年新潮社、第五章「妻の在宅ホスピス」を参照。二〇年以上前に、在宅の力を作り上げた人々の中に、秋山さんのその後のご活躍の芽があります。

秋山さんの別名は「市谷のマザー・テレサ」二〇一〇年三月NHK「プロフェッショナル仕事の流儀」に訪問看護師秋山正子として取り上げられました。二〇一一年には、高齢化の進む東京都新宿の団地に「暮らしの保健室」を開設。住民の健康や介護に関する相談に応じ、地域医療連携に関与し、三〇年先の医療の姿を考えておられます。二〇一四年九月NHKスペシャルにて「新宿人情保健室」としてもドキュメントされました。またイギリスのマギーズセンターに出会い、がん患者と家族のための新しい相談支援の形を模索。現在Inaggies Tokyo projectの共同代表を勤めてもおられます。また、ホームホスピスにもつながる「坂町ミモザの家」も開設されました。

私が、感銘したのは、お姉さんの看取りの

前に、高齢のお母さんが「あなたにはいろいろ言い残すことがあるでしょう。いまのうちに、はっきり言っておきなさい」と、ご本人に伝えたことです。デス・エデュケーションとの見出しがありましたが、伝えるべきことをしっかりと伝える力は、折に触れて養われなければと、深く心に刻まれた場面です。(文責 E)



第三回ミニ講演会と語り合いの会

日時 平成二九年二月二六日(日)

一三時半～一五時半

前半 ミニ講演会

一四時五十分迄

後半 語り合いの会として

一五時～

会場 三重県総合文化センター生活工房

演題 「在宅医として思うこと」

●講師 木田英也氏

外科医出身の木田英也先生は、二〇〇五年八月に「在宅医療クリニックゆめ」を松阪市



田村町に開院されました。

目指すのは、一人の医師が何でも診るスタイルの在宅診療。奥さんで看護師の真帆子さんと二人で車に乗り込み、主に

松阪市と明和町の患者さん宅を訪れておられます。

施設見学会

訪問時期 3月中旬頃「憩いの渚」を予定改めて募集について詳細はお知らせいたします。

平成二九年度総会と第一回ミニ講演会

日時 平成二九年四月二九日(土・祝)

一三時三〇分～

会場 三重県総合文化センター

生涯学習センター四階中研修室

総会後にミニ講演会も開催の予定です。

編集後記

今年も日本各地で災害が起き、甚大な被害が出た。近年の異常気象の影響か？病気だけでなく、いつ、どこで、何が起きるかわからない昨今である。明日は我が身かも……。子どもの頃、自分の命に終わりがあるなんて考えてもみなかった。それが人生後半にもなると「死ぬのは必然。今日生きていることは奇跡」という言葉の意味が理解できるようになってきた。さらに終盤になれば、実感となるのだろう。だからこそ、「今」を大切にしたいと思うこの頃である。

(N)

